



## エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

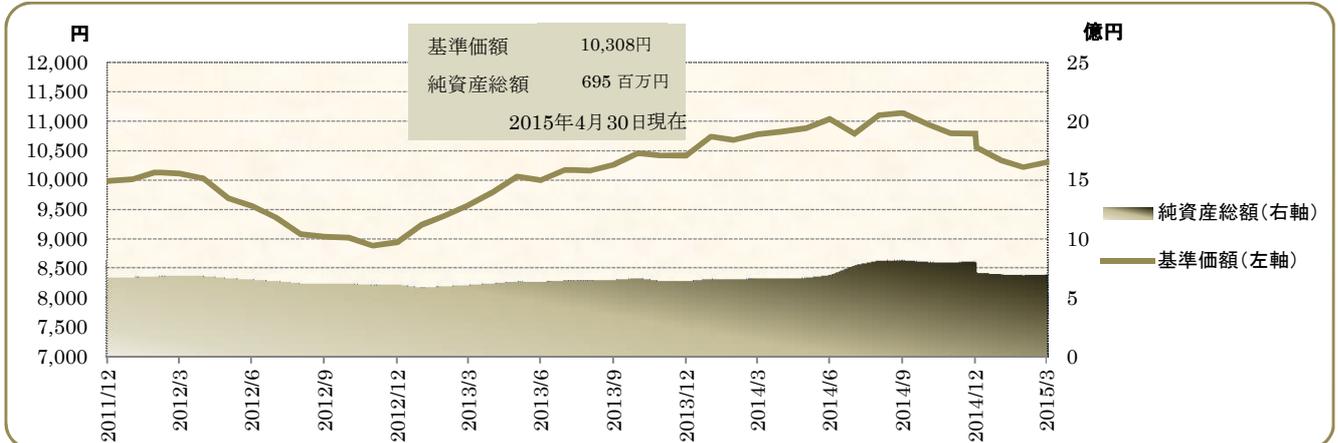
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2015年4月30日

## 基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

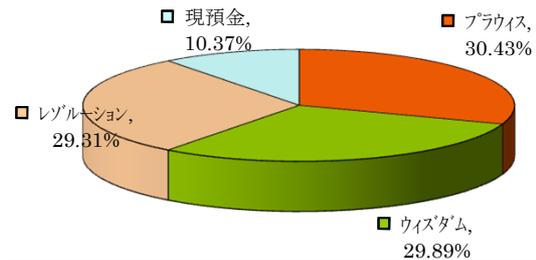
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%									-4.49%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%



## 運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2015年4月30日	
基準価額:	10,308円	対前月比 87円
純資産総額:	695百万円	対前月比 +5.8百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-2.36%
基準価額騰落率	6ヶ月	-5.89%
設定来	ファンド	3.08%
基準価額騰落率	TOPIX	120.13%
	日経平均	132.33%

## 投資対象ファンドへの資産配分 (2015年4月30日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

## 投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライム	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%									-1.45%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%									-3.31%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%									-5.98%
アドバンスド	-3.68%	-3.14%	-1.61%	2.68%									-5.75%
バリエーション	-8.54%	-0.43%	-2.08%	7.29%									-4.34%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライム	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%
アドバンスド	3.59%	1.01%	0.60%	2.15%	1.23%	2.72%	-1.24%	3.30%	-0.11%	0.03%	-0.40%	1.06%	14.71%
バリエーション	7.64%	0.92%	3.59%	3.63%	1.89%	5.28%	-2.17%	2.07%	0.65%	-0.96%	-2.24%	-1.19%	20.27%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライム	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%
アドバンスド	7.06%	6.89%	2.79%	6.39%	5.21%	4.71%	4.15%	0.84%	1.20%	1.91%	-2.71%	1.61%	47.65%
バリエーション	11.36%	2.57%	1.43%	14.44%	7.46%	1.93%	3.77%	0.67%	0.51%	3.33%	-5.39%	3.07%	53.66%

\* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

\* バリエーションの騰落率は、2014年6月以前はJPY-Sクラス、2014年7月以降はJPY-Fクラスの騰落率です。アドバンスドの騰落率は、2014年6月以前及び2014年12月以降はJPY-Sクラス、2014年7月～11月はJPY-Fクラスの騰落率です。年初来の収益率は月次収益率を時間加重したものです。



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

## 相場動向

4月の株式相場は、日経平均で1.63%上昇の19,520.01円、TOPIXで3.22%上昇の1,592.79ptとなりました。決算発表を控えて企業業績に対する期待感を背景に4か月連続の上昇となりました。

上旬は、日銀短観の結果が市場予想を下回ったことなどを背景に先物主導で下落、一時19,000円を割り込みましたが、堅調な米株や企業収益の拡大期待から好業績銘柄を中心に買われました。4月10日には日経平均が2000年4月以来となる20,000円を一時上回りました。

中旬は、中国景気やギリシャ情勢への不安、決算発表の本格化を控え、上値での利益確定売りと下値での押し目買いが交錯し方向感のない展開となりました。

下旬は、主力株が牽引する形で上昇しましたが、月末は日銀の追加緩和見送りで調整しました。19日に中国人民銀行が預金準備率の大幅引き下げを発表、世界の株式市場で好感され、22日には日経平均が終値ベースで約15年ぶりに20,000円を回復しました。しかし、米1~3月GDPが市場予想を下回ったことから景気減速への警戒感が高まり、また一部にあった30日の日銀金融政策決定会合で追加緩和が実施されるという期待が剥落したことで、月末は日経平均で500円を超える下げ幅となりました。

東証一部の売買代金は、平均で2.5兆円となり3月に続き高水準でした。

需給面では、海外投資家が3か月連続で買い越しとなり相場を牽引しました。一方で個人投資家が3か月連続で売り越し、信託銀行も2か月連続で売り越しとなりました。

セクター別騰落率では、鉱業、石油・石炭製品、パルプ・紙、銀行業、保険業が上昇となりました。一方で金属製品、医薬品、精密機械、化学、サービスが下落となりました。

ファクター面では、PERやPBRなどのバリュエーションファクターが非常に強い効果を示しました。またリターン・リバーサル効果も顕著でした。一方でROEや利益成長率などのグロースファクターはマイナスとなりました。

## 組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

### 【ブライズ】

#### <ファンド運用状況>

4月の運用成績はJPYクラスで+1.81%となりました。プラスの要因として、①割高な水準まで買われていた食品株の下落幅が大きかったこと、②REIT・サービスセクターのベアトレードにおいて割高・割安の修正があったこと、③PEやEBITDAなどのバリュエーションファクターが有効であったことがあげられます。

セクター別の損益は食品、サービス、電機、金融、REITセクターでプラスとなり、小売り、精密セクターでマイナスとなりました。

#### <今後の市況見通し及び投資戦略>

5月の株式市場はもみ合いの相場展開を想定します。公的年金や日銀のETF買い付けにより下値も限定的と思われるが、米国景気に対する懸念や、ギリシャの債務問題に対する不透明感も強まっていることから上値の重い展開が続くと思われます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

### 【ウィズダム】

#### <ファンド運用状況>

4月の運用成績はJPY-Fクラスで+0.27%でした。年初から継続して上昇していたディフェンシブセクターの割高株が相対的に下落したことや出遅れ割安株が相対的に上昇したことからプラス収益を確保しました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションで千葉銀行(8331)、JR東日本(9020)、ショートポジションではカカコム(2371)、東京エレクトロン(8035)がプラス収益に寄与しました。

#### <今後の市況見通し及び投資戦略>

5月の株式市場は横ばいを予想します。欧州でデフレ懸念が後退していることや米国景気の回復ペースが鈍化していることなどから、世界的な金融緩和で買い上げられた株式と債券のポジションを解消する動きが出ており短期的には上値の重い展開を予想します。しかしながら下値では日銀と公的資金が引き続き買いをサポートすると考えられます。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

### 【レゾリュション】

#### <ファンド運用状況>

4月の株式市場は、引き続き小型株の弱さが目立ちましたが、上昇が続いていたディフェンシブ大型株が下落に転じるなど、月末に向けてやや変化が見られました。

小型株についてもリバーサル傾向がみられ、割安株の上昇も見られるようになりました。

ポートフォリオは、電機、情報通信、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、化学、小売セクターをアンダーウェイトとしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

新薬に期待が持てる栄研化(4549)や見かけ以上に着実な業績進展が見られるDLE(3686)のロングのほか、割高な内需ディフェンシブ銘柄のショートがプラスに寄与しました。一方、ネット関連など小型株らしい内需銘柄のロングがマイナスに寄与しました。

全体として、先月同様の流れになりつつも、月末に向けてパフォーマンスの獲得を図ることができました。

#### <今後の市況見通し及び投資戦略>

需給要因による上昇相場が続く、売買の対象が一部銘柄に集中している傾向が続いていますが、やや変化の兆しも見えてきました。

小型株については、全体として閑散としており、業種内、業種間のバリュエーション格差が目立っているものの、一部割安株の見直しが見られるようになりました。

当面は、銘柄ローテーションを意識することによるバリュエーション修正が期待できる局面と考えます。決算やガイダンスの内容に振られることとなりますが、継続的な収益拡大企業に注目が集まると見込まれます。

決算通過後においては、一方通行の銘柄選択から個別業績見合いの銘柄選択に変化が生じ、相対的な割安感の強い小型株に注目が集まることを想定します。

引き続き、来期業績を考慮した、定性的なプレミアム付与が可能なグロース性を重視した銘柄選別を行います。

業績 momentum の変化に留意し、継続した業績拡大余地の大きい割安銘柄の組入を行います。成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

## 投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービシズ・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービシズ(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号
	加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 <a href="http://hedgefund-sec.com/">http://hedgefund-sec.com/</a>
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号
	加入協会:日本証券業協会



# エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

## 商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

## 当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

## ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。  
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。**  
**投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**